

富医ニュース

No.561 平成30年9月1日

一般社団法人 富田林医師会
 会長 宮田 重樹
 〒584-0082 富田林市向陽台1丁目3-38
 TEL.(0721)29-1210 FAX.(0721)28-0858
 E-mail: mail@tondabayashiishikai.jp

平成30年度 T M F

平成30年7月29日、日本列島を東から西に進む異例の進路を取った台風12号の台風一過直後の晴天の中、正午から梅田芸術劇場で宝塚歌劇団宙組のミュージカルWest Side Storyを鑑賞してきました。

West Side Storyは、シェイクスピア原作の“ロミオとジュリエット”を1950年代後半のニューヨークのウエストサイドに移して、人種差別や貧困といった社会問題を盛り込んだ悲恋の物語で、“トゥナイト”“クール”などの名曲に彩られたミュージカルでした。

昨年のレ・ミゼラブルとは異なり、宝塚歌劇団宙組の迫力あるダンスシーンと、オーケストラによる名曲の生演奏に圧倒された3時間でした。参加者は40名でした。

次年度も観劇または日帰り観光を考えておりますので、TMFへのご参加をお待ちしております。



宙組公演

TMGのご案内

平成30年11月11日(日)
 聖丘カントリークラブ
 8:00スタート(西・中コース)
 後日、ご案内致します。

調整日

8月分 9月6日(木)
 PM3:00まで

9月分 10月5日(金)
 PM3:00まで

9月の予定

- 3日(月)・会長副会長連絡会議
- 5日(水)・富田林三師会合同災害時救急医療研修会
- 6日(木)・調整日
- 11日(火)・学校医部会
 ・病診連携世話人会
- 13日(木)・学術講演会
- 14日(金)・理事会
- 19日(水)・救急災害医療委員会
- 21日(金)・広報調査委員会
- 25日(火)・感染症対策委員会
 ・訪問看護ステーション
 運営委員会
- 26日(水)・広報調査委員会
 (校正)



速報

いわゆる「予防接種委託料『返還』訴訟」 において富田林市及び富田林医師会 の勝訴が確定しました

大阪高裁での控訴審判決(原告敗訴)を不服として、原告側が最高裁に上告していた標記の訴訟ですが、昨日に最高裁から「上告棄却、上告不受理」の決定通知が届きました。

これで、2014年11月に提訴されました本訴訟については、今年3月1日の控訴審の判決内容、すなわち、富田林市、並びに富田林医師会、森口元会長、堀野前会長、及び藤岡理事の完全勝訴で確定いたしました。

医師会会員の皆様におかれましては、本訴訟の進行において、長い間ご心配をおかけしましたこととお詫びいたします。

なお、今後の対応につきましては、顧問弁護士とも相談しながら理事会で検討していく予定でございます。

今後とも当医師会の活動にご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
(宮田重樹)

平成30年度 富田林三師会合同災害時 救急医療研修会のご案内

日時 平成30年9月5日(水) 14:00~15:30

会場 富田林医師会 大会議室

テーマ『富田林三師会災害時医療救急活動マニュアル』
について

講師 富田林医師会・富田林歯科医師会・富田林薬剤師会 各担当理事

※テキストは先にお配りした「富田林三師会災害時医療救急活動マニュアル」をご持参ください。

※本会は生涯教育制度「1.5単位」、取得カリキュラムコード「10」・「12」・「14」を申請中です。

当日は生涯教育チケットをご持参ください。

富田林医師会学術講演会

日時 平成30年9月13日(木) 14:00~15:00

場所 富田林医師会 研修室

特別講演 14:00~15:00

座長 済生会富田林病院

消化器内科 部長 小牧 孝充 先生

演題 『H.pylori 陰性時代の逆流性食道炎治療』

近畿大学

消化器内科 講師 松井 繁長 先生

近年、日本人において逆流性食道炎は増加傾向にある。その原因として、食生活の欧米化、BMI高値または肥満者の増加、*Helicobacter pylori*感染率の低下などにより胃酸分泌能が増加したためである。臨床症状としてさまざまな症状がみられる。胸やけ、呑酸、心窩部痛、胸痛、つかえ感、咳嗽、のどの違和感、睡眠障害などである。重症例では吐血を認めることもある。

治療としては標準量のPPIを8週間内服することにより、約80~90%の内視鏡的治癒が得られると報告されていた。しかし、2015年の報告ではロサンゼルス(LA)分類Grade A,Bの軽症例では約70~90%の治癒、Grade C,Dの重症例では約50~70%に低下し、標準量PPI抵抗性の逆流性食道炎症例が増加している。また、従来のPPIの課題として、酸分泌抑制の遅さ、CYP2C19遺伝子多型EMにおける効果不十分、夜間酸分泌抑制不十分、重症型逆流性食道炎での治療抵抗性などがあげられる。これらの課題に対して新しく登場したボノプラザン(P-CAB)の位置付けについて解説する。

※本会は、生涯教育制度「1単位」、取得カリキュラムコード「12」・「52」を申請中です。

富田林医師会学術講演会

『オンライン診療アプリ開発者が語るオンライン診療の現状と未来』を聞いて

去る8月22日に当医師会大会議室において、株式会社メドレー代表取締役医師豊田剛一郎先生より講演を聞かせていただきました。

遠隔診療・オンライン診療に関する見解・環境の変遷として、1997年12月に厚生省による遠隔診療の「条件付き解禁通知」→2015年8月厚生労働省による事実上の「遠隔診療解禁通知」→2016年11月・2017年4月未来投資会議で遠隔診療の推進を明言→2018年3月診療報酬改定で「オンライン診療料」「オンライン医学管理料」の新設、厚生労働省による「オンライン診療の適切な実施に関する指針」の策定とオンライン診療の普及へと進められています。

オンライン診療とは、遠隔医療のうち医師—患者間に

において、情報通信機器を通して患者の診察及び診断を行い診断結果の伝達や処方等の診療行為をリアルタイムにより行う行為のことです。

なぜ今オンライン診療が必要なのかは、医療費の増大や医師不足など大きな課題に直面しており未来に向けて“かかりつけ医機能の強化”が必要不可欠であり、例えば50歳代男性での生活習慣病の5割が未治療または治療中断している。オンライン診療は通院負担を下げるため通院継続や早期治療介入の観点から注目されています。

オンライン診療は、外来、入院、訪問診療に次ぐ四つ目の診療スタイルとして患者により良い診療を提供するための「ツール」として安心して導入・活用できるようになっています。以上の詳細な説明を受けました。

私見としましては、オンライン診療にかかる導入・サポート費用が安いものではないのが今後導入を検討するうえで考慮する課題となると思われました。

第2回 女性医師の会

7月西日本豪雨のあと、今年の猛暑を予感させるようなむし暑い夕方、第2回「富田林医師会女性医師の会」がオリックス劇場近くのフレンチレストラン「コンヴィヴィアリテ」にて医師8名、事務局2名、計10名参加のもと催されました。こじんまりした隠れ家風レストランで、入り口には初世中村雁治郎生誕の地の石碑が立っています。この日は貸し切りで、ミシュラン1つ星のお料理を楽しみながらお互いの近況や、趣味の話、日頃のうっ憤をにぎやかに話すことができました。特に、フィギュアスケート裏話や、フィギュアスケートあるあるは興味深く、知らない世界を垣間見ることができました。

昨今、女性医師の在り方や、大学入試における問題が取りざたされていますが、富田林医師会の女性医師たちは、逞しく、前向きに、またプライベートの時間も大切にしつつ日々の診療に取り組んでいることを再認識しました。今回、初めて参加して下さった先生もいらっしゃって、まさにコンヴィヴィアリテ（“会食の愉しみ”という意味だそうです）を満喫できた夜でした。

まだ一度もこの会に参加されていない先生もいらっしゃるかと思えます。おいしい食事と、楽しい会話でリフレッシュできると思いますので、次回は是非参加してください。

新理事就任ご挨拶



中村・みなみクリニック

南 栄子

今年度より、富田林医師会の理事会の末席に加えていただくことになりました、中村・みなみクリニックの南栄子です。

平成9年に、富田林市の辺境の地で開業し20年以上経過しましたが、この間医師会の仕事と言えば、休日診療所と学校医の出務だけで、休日診療所委員の時は何とか出席していましたが、広報委員会はさぼり続けていました。富医ニュースに文章を書くのも入会のあいさつ以来20年ぶりというありさまです。

子育てもひと段落し、院長も交代して比較的時間にゆとりができましたので最後に少しは富田林医師会の役にたてればと思っています。かえって邪魔にならない様にだけはしたいと思いますので、よろしく願い致します。

* 鉄道トリビア ～金剛駅～

所在は大阪狭山市ですが、実質的には富田林市の西の玄関口ともいえる、南海の金剛駅。この「金剛」という名前の由来をご存知でしょうか。地名？ 金剛山の麓だから？ いえいえ、違うのです。今回はそのお話を。

金剛駅が開業したのは昭和12年のことです。その2年前に南海は創業50周年を迎えていました。記念事業として様々な催しが企画されましたが、その目玉企画が「四国八十八箇所出開帳」でした。これは四国八十八箇所の札所寺院の御本尊を会場に移して、会場で巡礼ができるようにするというものです。当然これには四国八十八箇所の寺院すべての承諾を得る必要がありますが、それまでの同様の企画では頓挫していました。しかし南海の担当者の必死の説得により、御本尊を移すことは難しいものの、新たに仏像を作り、会場で開眼供養を行うという折衷案が取りまとめられ、実現にこぎつけます。

会場は二か所に設けられることになりました。沿線で

8 月 行 事 ・ 会 合

自然豊かな、風光明媚な場所が検討され、一つは本線松ノ浜駅近くの「助松遠州園」、そしてもう一つの会場に選ばれたのが「寺ヶ池」でした。当時寺ヶ池周辺はスキが生い茂るばかりの野原で、それがかえって自然豊かな場所として評価されたようです。南海はこの場所に会場として「金剛園」を作り、その最寄り駅として金剛駅が設置されることになったのです。「金剛」の名前は四国八十八箇所の霊場を開いた弘法大師空海の勸請名である「遍照金剛」からとられたものなのです。

こうして出開帳は盛大に催され、43日間の期間中に40万人もの人々が訪れたそうです。両会場を効率よく回るためには南海電車の利用が便利とあって、かなりの収入があったそうです。出開帳の終了後、「金剛園」は閉鎖され、その後に住宅公団による開発がはじまり、現在の金剛団地ができていったのです。駅の周辺の地名は「金剛」ですが、これは昭和43年につけられたものだそうで、駅の方が先に「金剛」を名乗っていたことになります。

では金剛山の名前の由来は何なのでしょう。これも諸説あるようです。その昔「葛城嶺」と呼ばれていた金剛山で修験道の開祖である役小角が修行をおこない、「金剛山転法輪寺」を建てたことから「金剛山」と呼ばれるようになった説。朝鮮から渡来した人々が故郷のクムガン山に似ているとして、「金剛山」と呼ぶようになった説など。役小角、弘法大師空海。このような霊験あらたかな歴史上の人物にゆかりのある金剛。住んでいて、御利益があればいいのになあと思うのは私だけでしょうか。。。ではまた。 (zenkun)



図 四国八十八箇所出開帳の新聞広告
(左が1937年5月8日付、右が6月11日付。ともに「大阪毎日新聞」夕刊)

4日(土)・移動理事会

8日(水)・調整日

13日(月)

〃 ・事務所夏季休務

16日(木)

22日(水)・学術講演会

24日(金)・広報調査委員会

27日(月)・訪問看護ステーション運営委員会

28日(火)・休日診療委員会

・広報調査委員会(校正)



○会員数(9月1日現在) 190名

A会員 98名 B会員 92名

○入会 なし

○退会 なし

○異動 なし

広 報 調 査 委 員 会

委員長	齊 藤 謙 介	副委員長	森 井 秀 樹
委 員	青山 賢治	天城 完二	植村 匡志
	江村 俊也	奥野 敦史	尾多賀雅哉
	遠山 佳樹	中村 元	藤岡 洋
	山本 善哉	山村 友良	